

# ～留学レポート～



2020年

2月27日～3月23日

ニケライ ベッヘナーゼ

こんにちは！日本大学文理学部ドイツ文学科1年のニケライです。

この度、埼玉県・クイーンズランド州スカラシップ事業の奨学生に選ばれ、2月後半から3月後半の1か月ほどクイーンズランド州のゴールドコーストに派遣されました。私は、高校生の頃からこちらの埼玉県発のプログラムでオーストラリアに行くことが夢で、高校2年生の時から4年越しの夢が叶い、行くことができました。改めてこんな私を選んでいただき、本当にありがとうございます。今回私は、主に3つのことに分けて帰国後の留学レポートとして書かせていただきたいと思います。

(1)学校(サザンクロス大学)での生活 (2)埼玉親善大使としての活動 (3)現地の街並み、自然、文化の3つです。

## (1)学校(サザンクロス大学)での生活



学校は、ゴールドコースト空港のすぐ近くにありました。しかし私のホームステイ先はRobinaという少し遠いところにあり、片道40分以上かけて通学していました。日本の大学の1限は9時に始まりますが、こちらでは8時半に始まります。ホームステイ先から学校まで距離があるということ、朝ごはんやお昼ご飯の準備、バス停までの距離を考えると毎朝6時半に起きなければなりませんでした。早起きが最大の苦手な私には、慣れるまでとても時間がかかり当初はとても大変でした。しかし、学校での授業が楽しかったことに加え、同じ語学学校に通っている友達と話したり、一緒に過ごしていくうちに学校生活にも早起きにもすっかり慣れ、毎日がとても楽しみになっていきました。



お昼休みの写真です。(左右写真)

不定期でフリーサンドイッチやフリーアイスクリーム、綿あめなど様々なものが用意され学生に配られていました。早い者勝ちでしたが学校生活の楽しみの一つになっていました。味もいろいろあってとても美味しかったです。とてもいいシステムだったので日本の大学にも導入され、どんどん広まってほしいと思いました。

# 大学での授業について

ある日の授業では、“quote”についての授業が行われました。直訳すると「引用」ですが「名言」のような意味です。先生たちが有名な名言を教室の窓やドアに貼って、クラスの子とそれぞれの名言について話し合い、どの名言が一番好きか、またなぜかを理由まで答え、終わったらまた次のペアと話し合うの繰り返しといった授業でした。

お昼休みの後の3限はほとんど毎日がディスカッションの授業でしたが、私にとってこの日のこの授業が一番楽しくて、大好きでした。そして数多くある名言の中でも、特にこの右の写真の名言が一番好きでした。“挑戦することを辞めない限りあなたは決して敗者ではない” オーストラリア派遣の夢を諦めず4年越しに叶えて来ることができた自分にとって一番響く言葉でした。



今年は新型コロナウイルスの影響により、留学期間の最後の1週間でオンライン授業に変更されることになりました。もともと予定されていたプレゼンテーションが前倒しで実施されることになり、大慌てで準備に取り掛かりました。左のグループの学生はオーストラリアの伝統的なBoomerang(ブーメラン)について、右の男性はブラジル出身でアメリカのあまり聞き慣れない地域について話していました。私のグループはDidgeridoo(ディジュリドゥ)というオーストラリアの伝統楽器について話しました。この授業のトピックは、先生が決めたものだったので埼玉県については話せませんでした。日本の観光地、有名地の話になったとき、同じクラスに参加していた埼玉親善大使の学生たちとどンドン地名を出し合って、話をして、先生や周りのクラスメイトにも興味を持ってもらえたのでとても嬉しかったです。



## 大学での授業について（写真最終日）



先程も書いた通り新型コロナウイルスの影響で対面での通常授業が1週間早まって終了し、もう学校に行くこともなかったため、最終日にはクラスの友達と先生たちと記念に写真を沢山撮りました。左に写っている先生には、英作文をよく見ていただき、質問の受け答えも沢山していただきました。とても面倒見が良く、面白くて大好きな先生です。サザンクロス大学の先生は全員とてもフレンドリーで話しやすかったです。驚いた事は日本の先生と違って先生の名前を呼ぶ時は下の名前を呼ぶことと、これは写真に写っている先生だけなのですが腕に大きなタトゥーをしていたことです。先生がタトゥーをしていることは日本ではあり得ないことですし、今まで一度も見たことがなかったので、日本とオーストラリアの文化の違いを感じました。オーストラリアに来てタトゥーに対するイメージががらりと変わりましたし、オーストラリアの職業に縛られず自由なところがとても好きになりました。



他にも京都、大阪、兵庫、東京と様々な場所から来ていて、留学期間も人それぞれ違って、長い人だと1年以上前から来ている人もいました。他のクラスにはロシアやベネズエラから来ている人もいました。放課後たまにその人たちと話す機会があったのですが、ロシア人の男の子はロシアについて話してくれたり、ロシア語も少し教えてくれました。沢山の国の人と話し、交流ができるのもこの語学学校の良さだと思いました。



私のクラスには、コロンビア人の男の子が1人いるだけで後は全員日本人でした。左の写真でピースをしているオレンジのロングTシャツの人がその人です。クラスは3クラスあったのですが殆どが日本人でした。それぞれ日本の色々な地域から来て一緒に話したり授業を受けるのがとても楽しかったです。最後はほとんど全員と話をして仲良くなることができとても嬉しかったです。上に写っている女の子と左の写真の黒のTシャツと白のロングTシャツを着ている男の子は青森の同じ大学から来ていました。皆さんいい方ばかりでとても楽しかったです。

## (2)埼玉親善大使としての活動



私は埼玉県のことをオーストラリアの方にどう紹介すれば興味や関心を持ってもらえるかを考えた末、日本の伝統的な遊びのかるたに埼玉県の誇る食べ物や場所の絵を一枚一枚描いて作り、いろはかるたではなくABCかるたを作って紹介することにしました。(写真右)

一つ作るのに15分以上かかり、作るとは言ったものの、正直な所、想像以上に大変でした。バタバタしていたこともありましたが、実際出国まで全て作り終えることができず、現地に着いた最初の1.2日でやっと全て完成しました。当事業でオーストラリアに留学している他の奨学生の友達のお宅のホストマザーにご自宅に招待され、全員で一緒にかるたをやりました。ホストマザーに「あなたのアイデアはとて面白いわね！」と褒められ、子供たちにもとても喜んでもらったので、頑張ってたってよかったと強く思いました。



集合写真 (写真下)

かるただけではなく有名な“日本のお弁当”を知ってもらうために、当事業の奨学生3人で力を合わせてメニューを考え、作りました。(全部で5人の奨学生が当事業に参加していましたが、残りの2人は用事があったので来ることができませんでした) ウィンナー(右写真)にポテトサラダやおにぎり、またじゃがいもを使ってじゃがバターも作りました。どれもおいしいと喜んでもらえてとても良かったです。



かるたをやっている時の様子。(写真上) 私は読み手に初挑戦しました。皆さん勢い良く、必死になってカードを取ろうとしていました。



### (3)現地の街並み、自然、文化

ゴールドコーストは自然豊かで動物の飼育にとっても力を入れている場所でした。大学近くにあるWildlife Sanctuaryという動物の保護区ではコアラを抱っこできたり、羊の毛刈りショーやアボリジニーのダンスを見ることができました。



名門クイーンズランド大学のエントランスです。(写真上) キャンパスはブリスベンにあります。



ロビーナタウンセンターのお寿司屋さん(写真上) お店の人は日本人かと気になって聞いてみたらI don't speak Japanese.と言われてしまいました。中国の方のようでした。

パインズショッピングセンター(写真下) エントランスの近くに回転寿司のお店がありました。

サーファーズパラダイスにあるQ1タワーです。(写真上) 南半球で一番高い建物です。ここでもオーストラリアの自然の豊かさを感じることができました。



大学で仲良くなったオーストラリア人のお友達が放課後車で近くのビーチまで連れて行ってくれました。オーストラリアでは大学生になると殆どみんな車通学のように、大学内にも広い駐車場があり、とても驚きました。日本のように電車通学する人はほとんどいないようです。

